参考資料２

大学入学者選抜における総合的な英語力評価を推進するための ワーキンググループ（第５回）概要報告

【開催趣旨】

今年度に英語資格・検定試験における不正事件が明らかとなったことを受け、現在各試験団体において講じている不正防止対策等について知見を共有し、各英語資格・検定試験のより一層の安全性と公正性を図ることで、大学入学者選抜における英語資格・検定試験の活用を推進する。

【開催日時】

令和７年１１月１２日（水）１０時～１２時

【各試験団体において講じられている不正防止対策の例】

〇試験実施前の対策

・疑義のある申込に対する直接確認
・不正防止対策に係る定期的な研修の実施
・厳格な本人確認の実施
・試験資材の厳重な保管、問題冊子の封緘

〇試験当日の対策

＜自宅受験＞

・セカンドカメラによるリアルタイム監視
・AI 技術を活用したモニタリング
・受験者による試験環境動画の提出

＜会場受験＞

・生体認証技術の導入による本人確認の強化
・電波検知器の設置、電子探知の実施
・セキュリティカメラの設置
・リアルタイムの映像監視、パフォーマンス異常のモニタリング
・受験者用タブレットの制御
・複数の問題を受験者ごとにランダムに割り当て
・試験会場への持込物の制限
・受験済者と未受験者の動線を分離

〇試験後の対策

・試験結果をシステムにより検証・分析
・受験者を経由せず提出先に成績を直接送付し、成績の改ざんを防止

・スコア証明書の改ざん防止加工
・AI シグナルと試験の録画映像を監督者が確認
・テキスト回答の不正引用の検出

【意見交換の概要】

●本人確認の厳格化について

本人確認の厳格化により確認時間が長くなると推測されることや個人情報との関連について質問があり、以下の回答がなされた。

- 電子機器やスマートグラスのチェック強化により確認時間が増加し、試験開始が一部遅れる事例があるが、公正性確保を優先している。
- 荷物置場の設置や監督員配置の工夫で負担軽減を図っている。デジタル受験票を導入し、事前確認を進めることで当日の時間短縮を目指している。
- 手洗いのための試験会場入退室時にも本人確認を厳格化しており、受験者も時間ロスは許容している。
- 自宅受験の場合でも環境確認・身分証提出・室内確認などで 10～15 分を要するが、試験全体は過度に長くならないよう設計している。
- 個人情報は GDPR や ISO 基準に従い厳格に管理しており、受験者への説明や周知で不安の軽減を図っている。

●サイバーセキュリティ上の脅威について

サイバーセキュリティ上の課題について質問があり、以下の回答がなされた。

- レガシーシステムの脆弱性解消においては、システムの規模やコストが課題となるが、基盤刷新を進めている。
- AWS 障害による機能停止を経験し、マルチクラウド分散で耐障害性を強化している。
- IoT 機器（カメラなど）が攻撃対象となる事例があり、更新・認証強化・ネット分離などの対策が必要とされている。